

## ニュース・玉川大学ミツバチ科学研究施設から

ご挨拶

吉田 忠晴

この4月1日より松香光夫教授に代わり、玉川大学ミツバチ科学研究施設の主任を命ぜられました。初代主任岡田一次名誉教授から数えて4代目になります。ミツバチ科学研究所が設立された1979年11月当時は、パラグアイ国の養蜂指導に従事しており、1980年11月に帰国後からミツバチ科学研究施設の専任として籍を置いて参りました。1949年新制玉川大学の発足と同時に開始されたミツバチ研究の歴史は、50年を迎えようとしております。これからも関係者一同、ミツバチ科学に関する研究活動を押し進めたいと誓っております。何卒、倍旧のご理解ご鞭撻をお願い致します。

### 研究施設スタッフの動向

ミツバチ科学研究施設主任で農学科主任であった松香光夫教授は4月1日付けで大学院農学研究科科长に、松香教授に代わり佐々木正己教授が農学科主任にそれぞれ就任した。

吉田忠晴助教授は教授に、小野正人講師は助教授にそれぞれ昇格した。

### 第41回日本応用動物昆虫学会大会

1997年4月1日～3日に東京大学で開催された大会で、ミツバチ関係7題、マルハナバチ関係8題、マメコバチ関係1題、アシナガバチ関係3題の一般講演があった。最終日の小集会では、「生物資源としての社会性ハチ類」、「花と昆虫〈花粉媒介の生物学〉」が開催された。

### 海外研究者の来訪

農林水産省農業環境技術研究所の招聘で来日したカンサス大学生物科学部門昆虫学部の Oral R. Taylor 教授が3月11日に来訪。米国におけるアフリカ蜂化ミツバチの現状や女王蜂と雄蜂の配偶行動についてのセミナーが開催された。Taylor 教授は雄蜂の集合場所での誘引トラップ、テイラートラップの開発者でもあり、オリジナルトラップの寄贈を受けた。



テイラー博士

### 訂正

ミツバチ科学 18 卷 1 号 (1997 年 1 月 30 日) の記事中に誤りがありましたので訂正いたします。

後北峰之氏の「震災ニホンミツバチの観察」の記事中、12 ページ、図 7 の説明、下段

上のアクリル面に付着している部分を蜂が覆っている範囲に

下の蜂が覆っている範囲をアクリル面に付着している部分に入れ替える

### 編集後記

今年は春が早く、例年になく蜂の立ち上がり順調ではないだろうか。熊本県果樹研究センターの岡田氏の記事は、前号(18巻1号)の表紙が縁で投稿いただいた。その写真、タイトルだけでは説明不足だったため、開花・授粉などの識別用に花につけられた毛糸やビニールひもの評判が芳しくなかった。今号の記事を読んで納得いただけたらだろうか。江の川高等学校の宅野氏には紀伊山地の伝統養蜂の状況についてセイヨウミツバチも含めた形で紹介いただいた。吉田教授の連載「ニホンミツバチ」は2回目。今回は「生態」が中心の大部となったが、次回からいよいよ「飼育・管理」となるので楽しみに。

編集後記は今号から中村が担当します(純)